

「真っ暗なトンネルにいる」“コロナ後遺症”に苦しむ19歳女性「友達や家族とお出かけしたい」「助けてください」 知事に現状訴え、支援拡充など要望 1/22 長野放送



知事に現状訴え、支援拡充など要望 山田幸奈さん（長野放送）

新型コロナの後遺症に苦しむ岡谷市の19歳の女性が両親とともに長野県庁を訪れ、阿部知事に支援の拡充などを求めました。

車いすを押されながら入室したのは、岡谷市の山田幸奈さん19歳です。

1月22日、県庁で阿部知事と面会しました。

山田さんは、高校2年生だった2022年に新型コロナに感染。その後、倦怠感がとれず体に力が入らない状態が続き、医師から新型コロナ感染による後遺症と診断されました。

コロナ後遺症と診断・山田幸奈さん：

「回復に向かわないので『まだ動けないの』と世間から冷たい目で見られる。この先どうなるかわからない真っ暗なトンネルにいる私たちはどうすればいいですか、助けてください」

父親の博章さんは、「オンライン診療の公費負担化」「コロナ後遺症専門の診療ができる医療機関の開設」などを要望しました。

阿部知事：

「県としてもしっかりと対応していきたいと思いますし、全国的な対応については今の実態がどうなっているかよく把握した上でしっかりと向き合っていきたい」

コロナ後遺症と診断・山田幸奈さん：

「動けるようになったら働きたいし、友達や家族とお出かけにもいきたいし、これから頑張っていきたい」

山田さんは、同じ症状に悩む人たちのためにも、コロナ後遺症の情報発信を続けていきたいとしています。

長野放送